

授業概要

東南アジア地域は、隣接するインドや中国との間に古代から活発な交易が行われ、それぞれの文明を摂取して独自の世界を形成した。東南アジアの社会と文化を特徴づける多様性と多元性が、どのように生じたのか。時と空間を経てもたらされた文化が、それぞれの地で取舍選択され、変容をとげ、定着していく歴史について講義する。

授業計画

第1回	海の民
第2回	海のシルクロード
第3回	扶南
第4回	真臘
第5回	アンコール帝国
第6回	ポスト・アンコール
第7回	パガン王国
第8回	シュリーヴィジャヤ
第9回	パサイ
第10回	マタラム
第11回	ムラカ王国
第12回	アジアの大航海時代①オランダ東インド会社
第13回	アジアの大航海時代②イギリス東インド会社
第14回	海峡の分断
第15回	複合社会の成立
第16回	筆記試験

到達目標

東南アジア史に関する基礎的な歴史知識を習得する。歴史の流れの中で、西アジア、南アジア、東南アジア、東アジア地域がどのように接触し、共存、融合してきたか。また東南アジアは、世界史にどのような影響を与えてきたのか、その意義を理解する。

履修上の注意

東洋史概説の履修者がのぞましい。「東洋史特論Ⅰ、Ⅱ」と「東洋史特論Ⅲ」との関係はありません。

予習・復習

シラバスに従って基本的な知識を予習しておくこと。講義後は、配布されたプリントと参考文献などを読んで知識を深めておくこと。

評価方法

授業中の態度、授業後に回収するリアクシオペーパーの内容が50%、学期末の筆記試験50%として総合的に評価する。

テキスト

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。